

平成20（2008）年度
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻
修士課程（社会情報学コース・特別選考枠）
入学試験問題
専 門 科 目

（平成19年8月22日 13：00～15：00）

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. 本冊子は、社会情報学コース・特別選考枠の受験者のためのものである。
2. 本冊子の本文は3ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙は2枚ある。問題ごとに解答用紙1枚を使用すること。なお、解答用紙のみが採点の対象となる。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号及び受験番号を必ず記入すること。問題番号及び受験番号を記入していない答案は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
6. 解答は日本語によるものとする。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙、草稿用紙は持ち帰ってはならない。
9. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏 名	

社会情報学（特別選考） 第1問

次の文章は、ウィリアム・J・ミッチェル『サイボーグ化する私とネットワーク化する世界』（渡辺俊訳、NTT出版、2006年）から引用したものである。この文章を読んで次の問に答えなさい。

機械の小型化には究極的に限界がある。最終的に（ナノテクノロジーで想像されるような）原子単位の組み立てにまで極まると、素粒子を作り出すための機械として原子それ自体を考えないかぎり、そこで終了せざるをえない。しかし、純粋な情報の製品は別の話だ。ビットは物質的下地からまったく独立しうるのだ。完全に非物質化した電磁エネルギーのパターンとして、保存し、再生し、転送できるのである。

この効果の一つが、（電子機器の小型化と相まった）記憶装置の圧縮である。今や、ほとんど想像もできない多量のデジタル情報を家電サイズのサーバー上に保存できる。そして、小型・軽量の携帯装置を身につけて、苦もなくライブラリー全体を持ち歩ける。例えば今なら、MP3 プレイヤーは、かつてレコード棚という形をとっていたさまざまな音楽ライブラリーを収容できてしまう。

第二の効果は、情報製品の性格を変容することである。デジタルなテキスト、イメージ、その他の人工物は、物質に埋め込まれた比較的重い従来のものとは違った振る舞いを始める。それらは非競合的資産になるのである。それらは使い尽くされもしなければ、共有のために分割されもせず、費用がかからず質を落とさず無制限に再生でき、贈与者の損失なく分配できる。したがって、もちろん知的所有権の協定が邪魔しないかぎり、普及、応用、創造的な革新のための再編成を大々的に支援できる。

情報の非物質化の第三の効果は、物流に革命をもたらすことである。速度や容量に厳しい限界がある物理的輸送システムに依存しなくても、ビットはワイヤーを通じて光の速さで送り込める。ネットワークの帯域幅が増えれば、さらに大量に送り込める。そしてインターネットが極めて劇的に証明してきたように、コンピュータの能力を、複雑な流れと転送プロセスの自動的な管理に利用できるのである。

そして、これらすべての組み合わせによる特に強力なさらなる影響は、情報の生産者と消費者の可動性を高めることである。ますます、欲しい物を欲しいときに携帯無線装置へとダウンロードできるようになる。反対に、移動中に作り出した製品もアップロードできるようになる。これは、固定した仕事場という考えに対するまさに挑戦なのである。

非物質化は我々を場所と物への隷属から解放し、間接的には場所と物を管理する人による支配から解放する。それは、肉体第一主義政権の土台を揺るがすことになる。それは、新しい権力の形態を構築すると同時に、権力に抵抗する新しい方法を提供するのである。

- (1) 下線部はどのようなことを述べているのか。「大学における教育」を例として下線部の意味を400字程度でわかりやすく説明しなさい。

- (2) ここで述べられている情報の非物質化、圧縮について、具体例として①本、②画像、③貨幣、のいずれか一つを取り上げ、現実社会での流れとその効果について、800字程度で説明しなさい。

社会情報学（特別選考） 第2問

日本人の情報行動を分析するため、表1のように分類される行動を、いつでもどこでも行ったかを15分単位で2日間にわたって記録してもらった調査が2005年に実施された（回収票2,029、回収率67.6%）。2日間のデータを1日あたりの平均時間にした結果を、中分類ごとに集計し、さらに回答者の年代別にまとめたものが表2である（いずれの表も、東京大学大学院情報学環編『日本人の情報行動2005』東京大学出版会、2006年より作成）。

- (1) 表2から、日本人の情報行動の特性を多面的に分析せよ（1000字程度）。
- (2) この調査のあと、日本人の情報行動もさらに多様化し、表1のような分類では対応できない部分も生じはじめている。そのことも含め、この調査以降の日本人の情報行動の変化について論じなさい（600字程度）。

表1 情報行動のメディア形式による分類表

《A. 直接情報行動》

: 伝達過程で機器を介さず、音声言語や書字言語を用いて直接的に情報を授受・生産する。

人と話をする（打ち合わせを含む）
集会・会議・会合等に出席する
授業・講習・講演会に出席する
文章を手で書く

《B. メディア利用型情報行動》

: 情報機器を利用して情報を授受・処理・生産する。

<B1. パーソナル・メディア利用型>

: 情報機器を介して個別の様式で情報の授受・処理・生産を行う。

B1(1) 電話コミュニケーション系

: 電話を介してコミュニケーションを行う。

固定電話で話しをする
携帯電話・PHSで話をする

B1(2) コンピュータ・メディア系

: 半導体が中心的機能を果たす情報機器の利用行動。

パソコンを利用する（インターネット利用やゲーム利用を除く）
パソコンでDVD/テレビなどの動画をみる
パソコンでゲームをする
テレビゲームをする
携帯情報端末を使う
その他の電子情報機器（電卓・電子辞書など）を使う

B1(3) その他のパーソナル・メディア系

: その他の情報機器を介した個別の様式の情報の生産・編集行動。

ここでは「カラオケ」も個別様式の情報生産行動と見なした。

録画・撮影したビデオ・DVDを見る
ビデオカメラで撮影する
カラオケをする

<B2. パッケージ・メディア接触型>

: マス生産された情報を時間的に個別に享受する。内容の加工・付加は伴わない。

新聞を読む
本を読む (マンガ・雑誌を除く)
雑誌 (マンガを除く) を読む
マンガ (単行本・雑誌) を読む
新聞・雑誌・本・マンガ以外の活字文章を読む
レンタルあるいは購入したビデオ・DVDを見る
テープ・CD・MD・MP3プレーヤーなどを聞く

<B3. マスメディア接触型>

: マス生産された情報を同時間に多数で同時に享受する。

テレビ放送を見る
ラジオを聞く

<B4. インターネット利用>

: パソコンや携帯電話を通してインターネットを利用する。

B4(1) パソコン系

メールを読む・書く
チャットをする
メッセージャーを利用する
ウェブサイトを見る
ウェブサイト (掲示板、ブログなど) に書き込む
ネットゲームをする

B4(2) 携帯系

メールを読む・書く
チャットをする
メッセージャーを利用する
ウェブサイトを見る
ウェブサイト (掲示板、ブログなど) に書き込む
ネットゲームをする

《C. その他の情報行動》

: カテゴリーA・Bに属さない情報行動。とくに人為的に構成された情報空間への参加。

映画・演劇・美術館・コンサート・スポーツ観戦等に行く
その他
その他 (調査票記入)

表2 中分類ごとの全体平均および年代別の平均情報行動時間量 (単位:分)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	全体平均
A.直接情報行動	137.3	102.5	87.3	70.1	64.8	48.0	79.6
B.メディア利用型情報行動	334.2	360.0	322.9	321.3	321.2	378.0	335.1
B1.パーソナル・メディア利用型	62.3	100.0	96.6	84.0	54.7	39.1	71.8
(1)電話コミュニケーション	8.1	18.9	22.1	23.8	21.8	15.8	19.4
(2)コンピュータ・メディア系	43.4	72.7	71.2	59.3	31.7	18.3	48.3
(3)その他のパーソナル・メディア	11.1	11.3	9.8	6.4	5.5	6.3	7.9
B2.パッケージ・メディア接触型	90.7	68.2	45.7	45.4	53.3	70.7	59.1
B3.マスメディア接触型	156.4	170.4	171.6	188.0	217.8	286.6	203.0
B4.インターネット利用	82.0	72.3	44.9	37.5	18.3	6.1	38.1
(1)パソコン系	19.6	45.9	30.8	27.6	12.6	4.5	22.2
(2)携帯系	64.0	33.0	15.8	12.0	6.6	1.9	17.8
C.その他の情報行動	0.4	1.0	1.4	0.1	0.7	2.2	1.0
<情報行動合計>	449.7	423.4	383.5	373.0	359.2	416.4	393.6